

11-2

「日本の近世城郭群」という構想

松本城天守単独では世界遺産登録一覧表掲載候補にはなり得ないと考えた松本市は国宝四城を「近世城郭群」としてまとめ、姫路城の拡大遺産として登録する方向が可能かいなかの研究をまず、松本城・彦根城・犬山城、3城で始めました（今回は4城の遺産を統合することで世界遺産「**姫路城**」を越える**普遍的な価値**が見いだせるかを巡って、問題を解きながらお考えください。

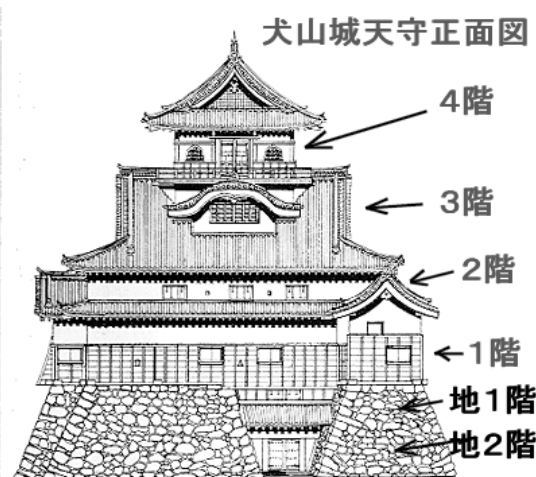
- 1 姫路城と彦根城は関ヶ原の戦い以後1600年～1615年の間に築造された我国の天守建築最盛期の「慶長後期」に属する天守です。したがって類似点は多くみられますが、「彦根城」にあつて世界遺産「姫路城」にはないものもあります。該当する番号に○を2つ付けなさい。

①彦根城には大名庭園や付属する建築物が残されているが姫路城に残されていない。

④空襲を免れた彦根市は城下町や旧藩の施設が比較的良好に保存されているが、姫路の城下町は空襲により江戸時代の建築物遺構は大部分が焼失している。

姫路城は大名庭園玄宮園や楽々園及び付属施設が残されている。彦根城と姫路城との大きな差はこれらの大名文化の遺構が残されていることである。彦根城の表御殿は完全な復元ではない。松本城の月見櫓も大名文化の遺構として評価したい。城下町は犬山・彦根に比較的良好に残されている。

- 2 犬山城は通説では四階の天守のうち一・二階が天文4年に造られ慶長5年頃三・四階部分が築かれたとされ、日本最古の天守といわれてきました。昭和40年解体修理完了後の「修理工事報告書」によれば、天文初年に一・二階が建設され慶長5年に三四階が増築されたとあります。しかし、現在では一・二階の建設も新しく慶長6年に造営されたとする説も有力です。増築を重ねた犬山城は日本城郭発達史の中でどのような意味を持つのでしょうか、どちらかに○をつけなさい。



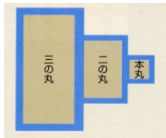
①一・二階の^{おおいりもや}大入母屋を掛けた部分がまず建設され、その上に小さな^{ぼろろう}望楼を乗せ形であり天守が生まれてくる天守建築の発展過程を考える上で重要な遺構である。

姫路城も彦根城も犬山城と同じく望楼型天守と呼ばれる建築様式です。入母屋屋根が特徴的でその屋根の内部に三階が造られています。松本城は層塔型天守です。

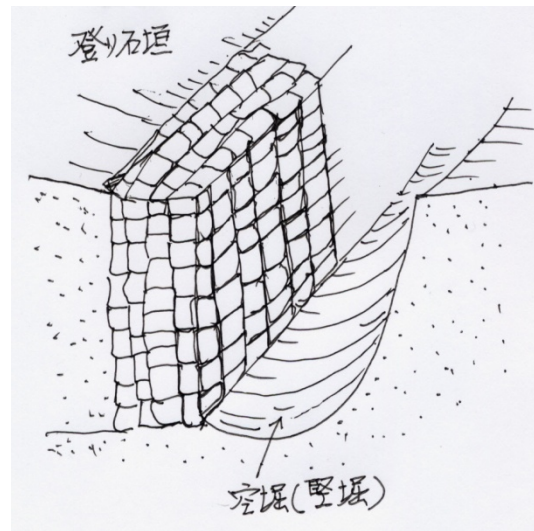
- 3 松本城は平城ですが、他の国宝3城は平山城です。しかし、その「縄張り」は地形の微妙な差によって「姫路城」と「犬山城・彦根城」とでは異なっています。次の()の中に「縄張り」の名称を番号で入れなさい。

○姫路城 (④) ○犬山城と彦根城 (①)

①連郭式



④渦郭式



- 4 彦根城は1606年に天守が完成します。松本城より後に天守が造られましたが、中世山城の防備に用いられた施設が継承され、近世城郭である彦根城山腹に存在しています。それは空堀の一方の斜面に垂直に近い「登り石垣」が造られている施設です。これはなんのためか。

②緩斜面上の敵の平行移動を阻止するため、空堀(堅堀)からよじ登れないようにするため。

5. 次の文は国宝4城のある城の特徴を説明していますが、城名を()に入れなさい。
- (1) 重臣の屋敷や長屋門が残されており、さらに、国内唯一の厩(うまや)の遺構が保存されている。(②)
- (2) 初期天守の特徴である城主の居住部分を天守一階に備えている。(③)

6. 姫路城は界遺産登録基準の(1)と(4)で登録されている。国宝3城が加わり「日本の



厩



犬山城天守一階

近世城郭群」として申請すれば、世界遺産登録基準1と4に加えて後2つの基準が付加されると考えられます。1と4を除き付加される価値の番号に○を2つ付けなさい。

- (2) ある期間を通じて建築、技術、景観デザイン等の発展に人類の価値の重要な交流を示すもの。
- (3) 現存する又は消滅した文化的伝統又は文明の少なくともまれな証拠となりうるもの。
- ※三城が加わることによって戦国末期の天守から江戸期の天守までのデザインや武備の変遷がわかり、また姫路城にない大名文化の遺構や城下町遺構が付加されて日本の近世城郭の普遍的な価値が高まり、世界の城郭と比肩しうる世界遺産になると思います。